

メッセージアウトライン ローマ 5 : 6~11 「神の愛」

[6]「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。」

「私たちがまだ弱かったとき」とは、「神に対して不敬虔であったとき」という意味。私たちが神を知らず、神に反逆し、不敬虔で自己中心な生き方をしていたときに、すでにキリストはそのような者のために死んでくださった。これは神の定められた時に起こったことであり、私たちのための身代わりの死、罪の贖いのための死であった。

[7-8]「正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」

「正しい人」「情け深い人」のためにでも自ら身代わりとなって死のうとする人はほとんどいない。これが人間の世界の現実の姿である。しかし、私たちがまだ罪人であったときにキリストは私たちのために死んでくださった。私たちには人類の始祖アダム以来の罪があり、私たちの心から罪深い行いが出てくる。→マルコ 7:20~23 しかし、キリストはこのように私たちのために、十字架につけられて死んでくださった。ここに神の桁外れの愛が明らかにされている。キリストの十字架によって、神は人間とは無関係なお方、恐ろしいお方ではなく、愛なるお方であることをはっきりと示されたのである。

[9-10]「ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」

キリストの血によって義と認められた者、すなわち罪の身代わりとなられたキリストを自分の救い主と受け入れた者は、もはや罪のもたらすさばきを恐れる必要はなく、神の怒りから救われる。かつては神の敵であった者が、神の御子イエス・キリストの死によって神と和解させられ、彼のいのちによって日々の具体的な罪からも救われ、救いの完成にあずかることができるのである。→ピリピ1:6

[11]「そればかりではなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。」

主イエス・キリストは十字架で私たちと神との和解を成り立たせてくださった。それで私たちにとって神はもはや敵でも恐ろしい裁判官でもなく、父なる神とされた。そして子どもが父を自慢し誇らしく思うように、私たちは神を大いに喜ぶものとされているのである。